



JOC-MPC プレスリリース

2024年8月12日 21時00分

JOCMPC-24-027

第33回オリンピック競技大会（2024／パリ）

メインプレスセンター（MPC）内JOCオフィス

Tel: +33 (0)9 20 24 05 79

E-mail: pressoffice@joc.or.jp

※本リリースに記載の時間は原則としてパリ時間となります。

件名：第33回オリンピック競技大会(2024/パリ)

トラック ケイリン男子準々決勝 準決勝 決勝 オムニアム女子

標記の件について、レース結果並びに選手のコメントをお知らせ致します。

記

■日時

2024年8月11日

■会場

ヴェロドローム・ド・サン・カンタン・アン・イヴリーヌ

パリ五輪第17日（11日）、自転車競技トラック最終日は、ケイリン男子準々決勝～決勝、女子オムニアムが行われた。男子ケイリンの中野慎詞は決勝まで駒を進めたが、決勝での最終周で落車に巻き込まれて4位でレースを終えることになりました。太田海也は、準決勝で降格、今大会2度目の警告により失格となりました。2大会連続のメダル獲得を期待された女子オムニアムの梶原悠未は、4種目合計44ポイントとなり全体の17位でレースを終えました。

梶原悠未（オムニアム）のコメント

「めっちゃめっちゃ悔しいです。3種目目の後、母と電話をしました。「最後まで諦めないで。今どういう状況か教えて」と言われ「体が動かない」と伝えました。「みんな祈ってくれているから大丈夫。最後まで自分のために、全部振り切って走りきって」と言われて、そこでやっと気持ちを切り替えることができました。本当にたくさんの方に支えていただいた3年間でしたが、メダルを持ち帰ることができず、悔しいです。皆さんの応援があったから最後まで走り切ることができました。ここで絶対終われないので、もっともっと人間力を向上させて帰ってきたい



JOC-MPC プレスリリース

と思います。」

中野慎詞（ケイリン）のコメント

「悔しい気持ちが強いです。トップ 2 人に力で劣っていることは感じていましたが、レース運びや自分の力を有利に持っていくことはきちんとでき、積極的に走っていたと思います。決勝のレースもグレート選手番手を確保して「いける」と思える動きができました。そういう部分は良かったのですが、最後につなげることができなくて残念です。冷静に『感じて』レースを運べとコーチから言われていました。ある程度いつでもダッシュできるよう準備をしていて、しっかり対応ができたと思います。あとは力負けなのかな、というのが今の気持ちです。トップ 2 人は一瞬で捲るようなスピードがあり、トップスピードが全く違うと感じました。オリンピックという舞台で積極的に走っており、それが決勝まで繋がったのだと思います。レース中も冷静に周りの動きを見て判断することができました。今後については、オリンピックのメダルはやっぱり獲りたいですが、でも現時点ではやり切ったような気持ちもあります。骨折もしてしまいましたし、気持ちもちょっと落ちているので、今の時点ですべての判断はできません。」

太田海也（ケイリン）のコメント

「僕たちの練習環境は日本の競輪ファン、そして競輪選手 1 人 1 人がサポートしてくれている、世界でも最高峰の環境です。にもかかわらずメダルが 1 つも獲れないという結果になってしまい、本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。これまで以上に自分を追い込む必要があると感じました。これまでの国際大会で同じようなシチュエーションになっても、警告を受けることは一度もありませんでした。オリンピックという舞台で失格を取られたという結果に、申し訳ない気持ちでいっぱいです。世界と戦えると思ってここに来て、でも金メダルには遠いということを実感しました。4 年後は金メダル、悪くて銅メダルというところを狙って、目標を持って練習するしかないのかなと思います。ボート競技を諦めて自転車にやってきて、「自転車競技では何があっても諦めない」と師匠とも約束してここまで来ました。気持ちは誰よりも強いと思っています。「4 年後」と思うと怖いですが、それでも、どんな小さな一歩でも一歩一歩踏み出して行って、自分の実力を上げ続けることに集中したいと思います。」

以上